

みんなで考える風水害対策と避難経路

— 2022年8月11日、門沢橋コミセン主催・海老名災ボラ協力：風水害対策講座 —

2022年8月11日(木、祝日)10時～11時40分、「門沢橋コミュニティセンター主催・海老名災害ボランティアネットワーク協力」による「風水害対策講座」が門沢橋コミセン1階集会室で開催された。



会議室への入場者数制限など、新型コロナウイルス感染症対策を重視して開催

門沢橋自治会回覧、中野自治会回覧、館内外のポスターなどで参加者を募集した。新型コロナウイルス感染症(第7波)が拡大している状況を考慮し、密閉・密集・密接を避けるために、参加者の人数を制限した。そのため、参加者を申込先着順で、10組(1グループ3名以内)までに制限した。当日の参加者は7組(17名)で、中学生から高齢者まで、門沢橋地域に住んでいる方が大多数を占めた。

アンケート調査に答える中で、「風水害に対する避難行動計画」を作る方式で実施した

●会議室入口で参加者確認、当日の資料(注1)を受け取り、7つのテーブルの周りに参加者が着席した。

(注)資料1:災害対策講座「みんなで考える風水害対策と避難経路」アンケート調査票

資料2:みんなで考える災害対策と避難経路(解説編)—アンケート調査票の補足説明—

資料3:「保存版海老名市防災ガイドブック」2020年3月、海老名市発行、

持っていない参加者には門沢橋地域と中野地域に関連する個所をコピーして手渡した。

●主催者(門沢橋コミセン)あいさつ、協力団体(海老名災ボラの講師1名、アドバイザー3名)の紹介で講座が始まった。講師から、アンケート調査票のA群、B群、C群の質問群についての補足説明があり、参加者はアンケート調査票への記入を開始した。アンケート調査票には質問と回答の説明が書いてあるが、分からないことがあると、各組に付いた「アドバイザー」が答える形で、調査票への記入が進められた。アンケート調査方式による避難行動計画(マイタイムライン)づくりは、海老名災ボラにとって初めての試みである。

質問A群:日頃からの「風水害への備え」の実践と、「避難行動計画の作成」を開始した

●門沢橋地域と中野地域に関係するハザードマップ(「相模川洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域」と「目久尻川・永池川洪水・内水浸水想定区域」)を見て、これら地域を含む海老名市内で、洪水浸水や土砂災害の程度を、知った。

●図面上に、自分の居住地を記入し、自分の避難予定先までの安全な避難経路を記入した。質問A群の記入が一段落した時から、この図面では分からない危険な場所、海老名市が契約した民間駐車場を利用できる条件、災害時の高速道路活用など、質問や意見が出された。

質問 B 群: 何時から「避難行動を開始するか、それぞれの家庭状況を踏まえて、考えた

● 台風接近や集中豪雨などの情報が入った時に、どんな風水害対策を実施するか、非常持ち出し品として何を選択するか、警戒レベル(1~5)が発令された場合にどの段階から避難行動を開始するか等に関する質問である。

● 家族の中に「特に配慮を必要とする方」(高齢、障害、病気など)がいるかどうか、避難行動を自動車で開始するか、歩いて開始するか、避難予定先をどこに設定しているかなどもによっても、大きな違いが出てくる。それゆえ、学校のテストのように正解は一つではない。家族の状況に応じて考えることが重要である。

質問 C 群: 避難指示が出され「きわめて危険な状況が迫った」時取るべき行動は？

● 既に洪水や土砂災害が発生しているかも知れない「きわめて危険な状況」となっているが、「未だ避難を完了していない」(避難予定先に到着していない)場合に、取るべき行動の選択を考える質問である。言い換えれば、避難途中の場所の状況、浸水のスピードなど、その時点では予測できない状況の中に自分・家族がいる場合、自分・家族の命を守るために、どのような緊急避難行動を選択するかという質問である。

● 行動選択の結果、自分・家族の命を守ることができたら、「的確な選択であった」と言える。しかし、そうでない結果であったら、苦しむことになるだろうと思われる。命の危険が迫る前に、早めの避難・避難先への到着を実現することが最も重要な課題だと思う。

● 海老名災ボラが作成した「災害対策講座のアンケート調査票」は、もう一度、風水害対策について考えてもらうために、参加者に持ち帰ってもらうことにした。

門沢橋コミセンの災害対策講座に参加した皆さんの感想

門沢橋コミセンが、今後の教室・イベント事業のために「参加者に対するアンケート調査」を当日、実施した。回答者は 17 名中の 15 名。門沢橋コミセン担当者が参加者の感想を要約した部分を掲載します。

- ① 災害に対する個々の意見が聞けて良かった。対策の現実味を帯びてくると思う。
- ② 普段から水害と地震と、災害によって避難の仕方が変わることを想定しないとだめだと改めて思った。
- ③ 他人事と思っていたけど、身近なものと感じた。家に帰って家族と改めて話し合いたいと思った。
- ④ 今回のような講座を他のコミセンや公共施設でも行って、広まっていくように希望します。
- ⑤ 自治会役員も参加すると、防災に関心を持って頂けると思います。まずは、私一人からでも防災について、今日学んだことを伝えていきたい。門沢橋コミセンが講座を開いて頂き、良かったと思います。
- ⑥ 皆様と協力できるよう、また役に建てるようにいろいろと知恵と勇気を持つことができる講座でした。このような講座を開催していただき、ありがとうございます。

● 文責: 海老名災ボラ福田博、講師は福田、アドバイザーは石橋友晴、三宅良子、嶋原義弘